

事業者排出量削減報告書

| | | | | | | | |
|---------------------------|--|--|--|----------------------|---------------------------------|-------------|---------|
| 住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） | 大阪府豊中市千成町3丁目5番3号 | | | | | | |
| 氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） | 松尾電機株式会社 執行役員生産部門長 木全弘一（委任状添付） | | | | | | |
| 事業者の主たる業種 | 電子部品（タンタルコンデンサ）の製造、販売 | | | | | | |
| 該当する事業者要件 | <input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上）） | | | | | | |
| 計画期間 | 平成20年4月～平成23年3月 | | | | | | |
| 基本方針 | 取得している環境マネジメントシステムの運用により、エネルギー使用量の削減、廃棄物の発生抑制・リサイクルの推進を実行する。 | | | | | | |
| 推進体制 | 全社の環境管理活動推進組織のもと、実施計画の策定、月毎の進捗管理を実行する。 | | | | | | |
| | 環境マネジメントシステム名称 | JISQ14001/ISO14001 | | | | | |
| | 適用範囲 | タンタル電解コンデンサ、フィルムコンデンサ、アルミ電解コンデンサ、回路保護部品の開発、設計、製造及び販売 | | | | | |
| | 取得年月日 | 2000年9月25日 | | | | | |
| 年度ごとの具体的な取組及び措置の状況 | 年度 | 設備、対象、工程等 | 措置内容 | | | | |
| | 20～22 | 工場部門 | 廃棄物削減によるCO ₂ 排出量を維持する。（平成21年度目標 削減率99%以上）以降99%を維持 | | | | |
| | 20～22 | 工場部門 | 廃棄物の投入数原単位を2007年度（平成19年度）実績に対して6%削減する。（平成22年度10%削減） | | | | |
| | 20～22 | 工場部門 | 原油換算エネルギー（電気+ガス）の原単位2007年度（平成19年度）実績に対して5%削減する。（平成22年度10%削減） | | | | |
| 温室効果ガスの排出量等 | 排出区分 | 基準年度（実績） （19年度） （二酸化炭素換算） | 目標年度（計画） （22年度） （二酸化炭素換算） | 増減率 （計画） | 報告年度（実績） （21年度） （二酸化炭素換算） | 増減率 （実績） | |
| | A 事業所等排出区分 | 7,333.0 t | 6,716.0 t | -8.4 % | 6,838.9 t | -6.7 % | |
| | B 輸送車両排出区分 | t | t | % | t | % | |
| | C その他排出区分 | t | t | % | t | % | |
| | 排出合計 | *1 7,333.0 t | *2 6,716.0 t | -8.4 % | *4 6,838.9 t | -6.7 % | |
| | 実績に対する自己評価 | 平成21年度の削減計画を遂行したが生産数増加もあり排出量は計画に及ばなかった。 | | | | | |
| 原単位当たりの温室効果ガス排出量等 | 用途区分 | 原単位の指標 | 基準年度（実績） | 目標年度（計画） | 増減率（計画） | 報告年度（実績） | 増減率（実績） |
| | 工場 | 二酸化炭素換算 生産数量（個） | 8.56 kg/個 | 6.16 kg/個 | -28.0 % | 7.09 kg/個 | -17.2 % |
| | | 二酸化炭素換算 | | | % | | % |
| | | 二酸化炭素換算 | | | % | | % |
| | 実績に対する自己評価 | 原単位は基準年度比-17.2%であり削減計画の実行効果が出ている。 | | | | | |
| その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等 | 対策等の区分 | 目標年度（計画） | | 報告年度（実績） | | | |
| | | 取組量等 | （二酸化炭素換算） | 取組量等 | | （二酸化炭素換算） | |
| | 森林の保全及び整備 | （整備面積） ha | （吸収量） t | （整備面積） ha | | （吸収量） t | |
| | 府内産の木材の利用 | （利用量） m ³ | （削減量） t | （利用量） m ³ | | （削減量） t | |
| | 自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給 | （発電量） kWh | （削減量） t | （発電量） kWh | | （削減量） t | |
| | グリーン電力の購入 | （購入量） kWh | （削減量） t | （購入量） kWh | | （削減量） t | |
| | 家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入 | （購入量） t | （削減量） t | （購入量） t | | （削減量） t | |
| | 削減量等合計 | | *3 t | *5 t | | | |
| 差引排出量 （排出合計-削減等合計） | | 基準年度（実績） | 目標年度（計画） | 増減率（計画） | 報告年度（実績） | 増減率（実績） | |
| | | *1 7,333.0 t | *2-(*3) 6,716.0 t | -8.4 % | *4-(*5) 6,838.9 t | -6.7 % | |
| 地球温暖化対策に資する社会貢献活動 | 排出物削減、エネルギー使用量削減、有害物質の管理態勢強化等を工場の環境管理活動で取組んでいる。 | | | | | | |
| 特記事項 | | | | | | | |

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。